

『通いの場』通信



Vol.12

令和元年6月21日発行

第5回支え合いのまちづくりフォーラム

被災地発支え合い活動実践発表会「豪雨ニモマケズ」を開催しました！

平成30年豪雨という大きな災害を経験し、各地区で様々な復興や支え合いの取り組みが行われています。第5回目となる今回は、「被災地発支え合い活動実践発表会」というテーマで「災害に負けないつながりのある地域づくり」を考える場となりました。

① 開演前

支え合いのまちづくりカフェ（くらしき健康福祉プラザ屋外広場にて）

フォーラム参加者・被災者・近隣住民の交流を目的とした、カフェをフォーラム前の午前中に開催。味の素AGF株式会社やグリーンコープに協力をいただき、ホットドリンクやお菓子で会話がはずみました。



② 実践発表

集いの復活「有井女子会」

地区の公民館をボランティアの活動の拠点とし、地域の中で気になる方と支援を繋いでいる。



発災から4ヶ月、「有井女子会」が復活。至る所で再会を喜び合う女子の姿がありました。

原亮章さんと浅野静子さん

呉妹地区社会福祉協議会の「作戦会議」

定期的な「作戦会議」により、被災者向けの情報発信や、被災を免れた方も参加できる催しの企画継続して行っており、地域住民が定期的に交流できる同窓会を開催しています。



森本常男さん

川辺復興プロジェクト「あるく」

無料通信アプリLINEで住民が情報共有できるグループを作った活動や、住民アンケートによるニーズの把握、川辺地区住民の居場所づくりを世代や立場の垣根を越えて行いました。



槇原聡美さんと松田美津枝さん

居酒屋を活用した居場所づくり「楽らく寄合所」

「食べ物屋」として出来ることを考え、被災者同士が情報交換が出来る場を作りたいと「楽らく寄合所」を開催。地元住民とも連携しながら支援の輪が広がりました。



松下光明さんと松下かよさん

③ まとめ

フォーラムの基調講演と実践発表会のコーディネートをつとめていただいた、一般社団法人Wellbe Designの篠原辰二理事長からはまとめとして「日頃のつながりは、何よりの「備え」となります。大きな災害を経験した今だからこそ、つながりを意識し、自分たちの地域を自分たちでつくっていきましょう」とあたたかいメッセージをいただきました。



「たす・ひく・かけるの支え合い」
「支え合い」の「支」という字をよく見ると「+」「-」「×」で作られていることがわかります。どれも大切な要素です！



…情報や意識を足す

…不安や課題を引く

…できる力や人を掛け合わせる

は？…そのために腹をわって話し合おう！

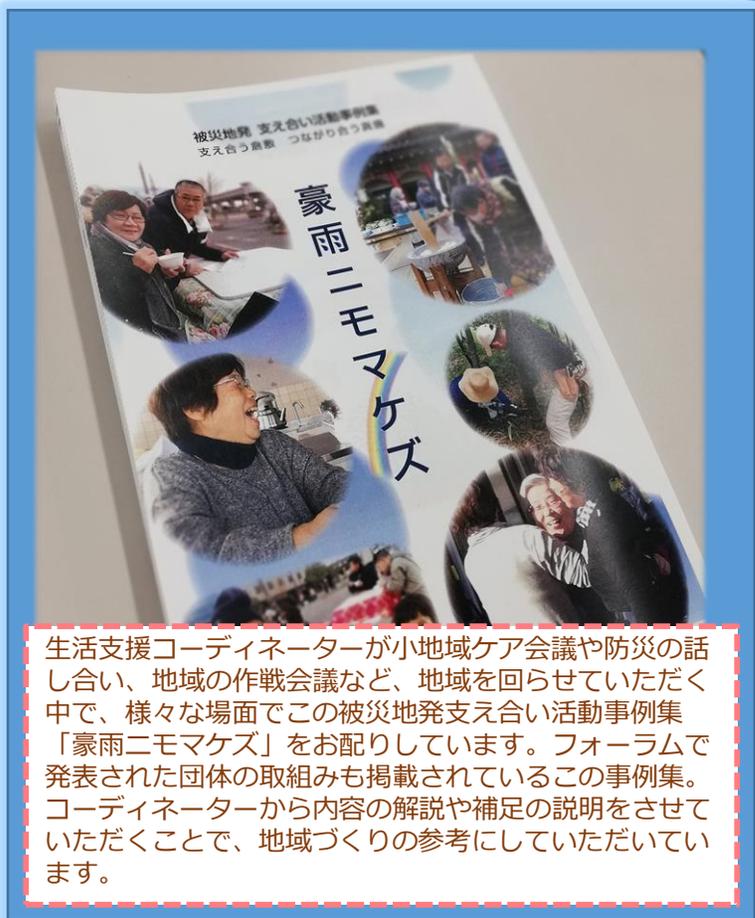
問い合わせ先

倉敷市社会福祉協議会 地域福祉課 倉敷市笹沖180番地 ☎086-434-3301

～支え合う倉敷 つながり合う真備～

『豪雨二モマケズ』

H31. 3月発行
被災地発
支え合い活動
事例集



生活支援コーディネーターが小地域ケア会議や防災の話し合い、地域の作戦会議など、地域を回らせていただく中で、様々な場面でこの被災地発支え合い活動事例集「豪雨二モマケズ」をお配りしています。フォーラムで発表された団体の取組みも掲載されているこの事例集。コーディネーターから内容の解説や補足の説明をさせていただくことで、地域づくりの参考にさせていただいています。

『災害に負けない支え合いの地域へ』

平成30年7月豪雨災害により、多くの方が被災し、今もなお、住み慣れた自宅や地域を離れて生活を送る方も多く、被災地復興はこれからが本番です。

被災地やその周辺の地域に目を向けてみると、復興に向けた支え合いの萌芽は至る所にみられ、これまで地域が大切に育ててきた絆や文化を生かし、被災者・被災地を支えながら、復興に向かっていく「支え合い活動」が数多く見られています。

この「被災地発支え合い活動事例集『豪雨二モマケズ』」は、そのような支え合い活動の取り組みや地域で活躍する支援者「支えびと（ささえびと）」を紹介する情報等をまとめたものです。

大切なことは・・・

これまでの「なじみの関係性」と「地域愛」

要
チ
エ
ツ
ク
！

各団体、組織、サロン等でまとめて事例集が欲しい方へ

生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）が事例集をお持ちし、直接ご紹介いたします！是非、下記までご連絡ください。

事例集に掲載している内容の、その後の状況や、ページに収まりきらなかったエピソードなどもご紹介いたします！

説明を希望される方、気軽に声をかけて下さい！



事例集の説明を行う阪本コーディネーター

電子版は
こちらから

制作&問い合わせ先
社会福祉法人倉敷市社会福祉協議会
倉敷市笹沖180番地 ☎086-434-3301

